

## 自己点検・評価「多摩美術大学 2000 - 2003」の基本的考え方について

自己点検・評価「多摩美術大学 2000 - 2003」を出版するにあたり、その目的、方法等を以下のとおり定める。自己点検・評価活動を行うに際し、それに関わる全ての関係者が、この基本的考え方の趣旨を共有するものとする。

### どのような内容にするのか？

- ・自己点検・評価部会に、分野ごとの作業グループを設ける。分野ごとのグループ報告を部会全体でまとめて部会報告を作成する。
- ・外部評価者により、部会報告の評価と現地ヒアリングを行う。外部評価者による評価報告も含めて「多摩美術大学 2000-2003」として出版する。
- ・自己点検・評価の見直し視点は、作業グループごとに設定する。作業グループでは「制約条件」は考慮に入れない。  
「教育・研究、学生支援系グループ：学生の利益の視点に立つ。就職系グループ：企業の利益の視点に立つ。財政、マネジメント系グループ：経営の視点に立つ。」など、各グループが最優先とする利益の視点により、グループ報告をまとめる。
- ・部会報告としてまとめる際に、グループごとの利益調整をはかる。部会報告は、可能な限りグループの自由な意見を残すこととする。
- ・グループ、部会報告をまとめる際、共通の統計データ（入学者数、学生数、卒業者数、就職率等など数的指標）を用いる。但し、統計データには必ずしも拘らない。
- ・外部評価者による評価は、「外部評価の練習」としての意味を理解して貰う。改善点や時期は履行の責任を負うものではない。自己点検・評価のプロセスそのものを重視して外部評価を行って貰う。但し、外部評価の結果は今後の自己点検・評価活動、各部署の運営に積極的に役立てるものとする。

### どのような組織で行うのか？

- ・自己点検・評価部会  
全学レベルで参加するものとする。各担当者（部署）による見直しの申告を、上記手続きにより自己点検・評価部会報告としてまとめる。
- ・外部評価者  
教育・研究、財務・マネジメント等の専門家に外部評価を依頼する。

### 見直し項目はどうするのか？

- ・多くの項目を詰め込みすぎない。教育・研究および、その「制約条件」となる財務等、それを実行するマネジメント体勢などに絞る。見直し項目は、別途定める。

### どのまで踏み込んだ内容にするのか？

- ・公開を前提とした内容であること。
- ・詳細に過ぎる問題点の指摘、コンセンサスを得ていない改善案、履行期限を定めた改善案などの提示は行わない。プロセスそのものを重視する。

### いつ出版するのか？

- ・秋口とする。